

JOSEI KANAGAWA

浄青神奈川



大本山光明寺法主宮林昭彦台下御染筆



法然上人行状絵図 卷3段1
(勢至丸、比叡山に登る) 知恩院蔵

- 2 平野会長挨拶
- 3 宮林昭彦台下挨拶
平野仁司教区長挨拶
- 4 三荒前会長退任挨拶
- 5 行事報告
- 6,7 執行部紹介・出向者紹介
- 8,9 各組紹介
- 10 法然塾総括
- 11 卒業、新入会員紹介
- 12 平成20年度事業計画

第19期テーマ

「原点回帰」

～自省からの出発～

第17代会長 平野 誠司

「原点回帰」

～自省からの出発～

第19期浄土宗神奈川教区青年会

第17代会長 平野 誠司



この度、浅学非才の身でありながら、第十九期浄土宗神奈川教区青年会・第十七代会長に就任いたしました高座組宗仲寺平野誠司でございます。諸先輩の皆様が築きあげてこられた伝統を礎に、この二年間精一杯努めてまいりたいと思っております。どうぞ叱咤激励の程をお願い申し上げます。

さて、連日マスクミを賑わせている犯罪の数々、それも目を覆いたくなるような痛ましい事件が次々と起こっています。物の豊かさとは裏腹に、無差別殺人、親子間の殺人や虐待等、命の大切さが忘れられた姿がそこにあります。本来人の心の乱れた世にあって、私たちは、今こそ浄土宗の一僧侶としてどうあるべきかを真剣に考え、行動すべき時ではないでしょうか。

そこで第十九期の活動テーマに掲げたのが「原点回帰」です。即ち、乱世に生きる人々の支えとなり専修念仏を通して民衆の魂を救済された法然上人の懐へもう一度帰り、原点を見直していこうとするものであります。

前期最後の法然塾で、八百年大遠忌を見据えて「今、何をすべきか」をなげかけられ、バトンを引き継いだ今、身の引きしまる思いの中から『衿を正す』ことに心したいと思えます。

「原点回帰」法然上人は「予がごときはすでに戒定慧の三学の器にあらず」という徹底した自己省察をされています。私たちもまずは自省からはじめ、その中で当神奈川教区青年会のあり方も見つけ直していきたいと思えます。

今期事業としましては、九月に他宗団見学として、法然上人が学ばれた比叡山を訪れ、黒谷青龍寺での別時会を計画しております。その他、教区

長杯争奪ソフトボール大会を港南組の担当により開催します。また、神浄青が発足して今年三十五周年を迎え、記念事業として神浄青手帳の発行、十二月には記念講演並びに懇親会を開催し、諸先輩方と現会員との交流をはかりたいと思えます。

次年度の初旬に、檀信徒の皆さんと共に僧俗一体となってお念仏をお唱えする神浄青大別時念仏会を開催いたします。この大別時念仏会は、第十七期からの継続事業で、第三回となりなりますが、過去二回とも大勢の檀信徒のご参加を頂いております。ただ、別時会ですのであくまでも「自行」という考えの中で行ってまいります。私達の如法な姿を見ていただき、そして、一緒に木魚をたたきお念仏を声高らかにお唱えしていただく、その中で、参加された檀信徒の皆さんが「参加してよかった」と思っていたければ、そこに私たち青年会に出来る教化が生まれると思えます。また、会員の多くは自坊において副住職という立場にあります。この別時念仏会の経験が、将来、自坊で檀信徒と共にお念仏をお唱えする縁となれば、大きな意味があると思えます。

現在、神浄青も百二十四名の会員をもって構成されていますが、各事業においては、限られた参加者となっている現状があります。そこで、一人でも多くの会員が浄青の活動に心を向けていただく事を今期の課題としています。是非、神浄青の諸事業並びに関プロ・全浄の事業に参加し持てる若い力を貸して頂きたいと思えます。

皆で心を合わせて、三年後に迫っている大遠忌へとつなげていきたいと願っています。



法然上人行状絵図 巻3段1 (勢至丸、比叡山に登る) 知恩院 蔵



魂に震える念仏を

大本山光明寺法主 宮林昭彦 台下

神淨青が新年度にあたり平野会長を中心に新体制をととのい、選ばれたスタッフによって、ここにスタートされましたこと大いなる期待をこめて慶祝に存じます。申すまでもなく、宗祖法然上人の教えの特色は時機相応といわれます。時機をどうとらえるか、末法澆季の時代に生きる凡夫、それは今に生きる私が主題です。仏教は自覚の宗教といわれますが、現代と人間を凝視して、仏教的立場から、念仏の本義の上から、自ら目覚めることであります。ややもすると現代的尺度で仏教と、念仏を見つめ直そうとする傾向があります。確かに現代化ということは現在の進んでいる科学的思惟方法で見直すことは一面大切なことですが、現代社会の様相を、仏教的立場で意識改革することこそ大切なことではないでしょうか。なぜならば、現代日本のすがたは、社会的、文化的そして倫理的な価値観がくずれ去ってしまっています。そのような歴史の流れのなかで先人達が伝えてきたよき伝統をしっかりと伝承することです。わが国は時代はさまざま移っても、その土壌は仏教によって支えられて文化や道徳

が育まれてきました。しかし、今はものに対する価値判断も様々で、自由の名のもとに我侪勝手に自己中心の行動が目にあまります。そのときこそ仏教の精神を通じて社会に共生和合の秩序が保たれ、人間がまず命の尊厳のもと、なにより心に生きる感動をおぼえることを喚起することが大切です。

宗祖が黒谷青竜寺に於いて十八歳から四十三歳まで血みどろの求道生活のなかでついに回心されたご心境を追懐して、今こそ淨青の諸君は魂の震えるような念仏を一分でも味得されるよう期待したいと思えます。

念仏にもものうき人は無量の宝を失うべし。
念仏にいさみある人は、無辺の悟りを開くべき人なり。
相かまえて願往生の心にて念仏を相続すべきなり。

『十二問答』

このたびのテーマ「原点回帰」こそ時宜を得た宗祖八百年大御忌に相応しい実践道と心得て更なる御精進を希念申し上げます。



くろだにでの思い

神奈川教区教区長 平野 仁司

新年度を迎えた春四月、例年の如く各総・大本山では御忌大会が盛大に行われました。金戒光明寺の堂内に於いて拝した『一枚起請文』にすごい感動を覚え、法然上人のお姿が目の前にあるような気が致しました。

となられた地であります。聞くところによると、神奈川淨青では九月にこの黒谷で夜を徹しての別時念仏を行うとのこと。淨青が発足し三十五周年を迎える節目に誠にふさわしい行事といえましょう。神淨青の草創期を担った一人として、かつて各大本山の広間に寝泊りし念仏行脚を続けたことなどが今、脳裡によみがえります。宗祖の歩まれた跡をたどり、念仏の教えの根本道場に立つということは、まさに淨青のめざす「原点回帰」にほかなりません。

初讚唱導師をされた長野教区・荻須眞教上人より招待を受け御忌会に参列。四月二十三、二十四日の日中法要に於いてのみ軸装のご文が堂内に内拝せられるという幸甚に恵まれたのです。法然上人が勢観房にさすけられた真筆と伝えられているのが、通称くろ谷といわれている京都黒谷の金戒光明寺に蔵されている一枚起請文。目の前をそのお軸がしらずしずと通り過ぎ、時間にすればほんの一瞬のことではありましたが、本物へのトキメキ、感激は一入のものでした。

念仏の教えをしっかりと受け継いでいくとする青年僧への期待は大きい。そうした中で滅後、八百年後の我々にまで、心をとどめ書きとめられた御遺訓の意をしっかりと受けとめて進まれることを願いたい。特に「只一向に念仏すべし」の文が改めて伝道への確信となることを祈ります。

黒谷といえば、比叡山の西塔黒谷・青龍寺は、隠遁・ご修行された法然上人が、経蔵で開宗の御文を発見、専修一行の身

第18期会長退任挨拶



第16代会長 三荒 弘道

第16代会長



平成十七年十二月、大船の中華料理店で開催された神浄青臨時総会において、第十八期浄土宗神奈川教区青年会 第十六代会長の承認を頂いてから早二年半の月日が経とうとしています。「光陰矢の如し」つくづく時の経つ早さに驚かされます。非才、不肖の身である私が、伝統ある「神浄青」の会長職を二年間全うする事が出来るのか、不安ばかりで自問自答を繰り返す日々ではありましたが、執行部をはじめとする現役員一人一人のお力添えとOB・本山・教区・各種団体諸役の皆様へ厚きご指導を賜り、どうにか事業遂行に邁進する事ができました。心より御礼申し上げます。会長職を務める中で、法然上人のみ教えを礎に、例え小さな力であっても、浄土宗・仏教の更なる飛躍を見据え、会員一人一人が共に汗を流し、事業を遂行していく大切さと、自行・化他・和合の精神を体に刻み、諸先輩の皆様方が強き絆で繋いでこられた伝統ある神浄青を、次世代に繋いでいく事の大切さを全身で実感できた二年間でありました。

第十八期浄土宗神奈川教区青年会は、活動テーマ「選択（せんたく）の責務、選択（せんちやく）を担って」を掲げ、事業展開してまいりました。会長就任一年目は「全国浄土宗青年会 全国大会」をおよそ二十年振りに、神奈川の地で開催する重要な年でありましたが、大会実行委員長であった井上俊道上人の類い稀なる指導力の元、神奈川の浄青会員が正に一つとなり大会運営ができたことは、今後の神浄青にとって財産となる大会でありました。お陰様で多方面より大会内容のお褒めの言葉も頂戴し、大会成功の達成感と会員同志の絆が更なる深まりを得た事が何よりの収穫でありました。

また今期は「法然塾」を立ち上げ（浄土宗僧侶として、宗祖法然上人のみ教えを拡げるために、多様化する現代社会において、問題提起と発信するフィールドを明確にし、如何に発信し実践していくのかを、講師の基調講演や会員同士のディスカッションを通して研鑽し、自身のモチベーションを上げていく研修会）二年間計七回開催してまいりました。特に靖国神社参拝見学、京都宗務庁・宗議会見学、京浜組林田氏による法然上人史跡見学、小田原少年院見学、国会（参議院）・最高裁判所見学等、フィールドワーク（実際に見る）を機軸に、現在の社会問題をテーマに掲げ、自身に取り巻く様々な課題を、浄土宗のものさしで考える

力を養うこの研修会は、参加頂いた浄青会員一人一人のスキルアップに繋がる事業であったと確信しております。

「第二回神浄青主催 大別時念仏会」では、平野誠司副会長が実行委員会の大別時念仏会としてリーダーシップを発揮して頂き、実行委員会を取りまとめ、檀信徒と会員を合わせ三百名近くの皆様にご参加頂き、ご一緒にお念仏をお唱えする事ができました。

また「神浄青必携」製本の際には、石川参副会長率いる実行委員会メンバーの努力により、浄土宗僧侶として、仏教者として、知っておかなくてはならない事項（教学基礎・法式・伝導）や会員が活動する中で役に立つ用語集、更には宗行政のルール等をマニュアルを網羅し、会員がいつでもどこでも参考にできるポケットサイズの要覧形式にて作製いたしました。ページ数に限りがあり、どこまで集約できたかは些か省みる点はありますが、第一段としては必ず会員のスキルアップに繋がるものが作製できたこと確信しております。

「神浄青公式ホームページ製作」では、水谷知靖上人率いる編集委員会メンバーの努力により、コンテンツ・カテゴリーが豊富で、会員自身が参加できるアップサイクルを活用し、教区に頼らない、浄青独自のホームページを製作する事ができました。

また、救援活動を円滑に展開する為のシステムづくり等は今後の課題と言え、更なる取り組みが必要と感じています。そして教区長杯争奪ソフトボール大会を担当して頂いた小田原組・港北組の皆様方、家族会や忘年会・総会・理事会を支えてくれた事務局のメンバーには本当にお世話になりました。ありがとうございます。

二年間の会長職を終えた今、あらためて実感しています。「混沌とした時代だからこそ、私たち浄土宗僧侶が念仏弘通の心をもって更に社会教化を実践して行かなくてはならない」と。せつかく入会した神浄青です。四十三才までしかできない青年会です。「浄土宗青年僧としての可能性を試せる、一生の友と出逢える、社会を豊かに出来る」こんな夢を持ちながら、共に熱き想いを持って活動する重要さを知って下さい。第十九期神浄青平野誠司会長を先頭に、常にお念仏を機軸とし、会員一丸となって目的を共有し、是非夢を形に、形を現実にして下さい。それが私の、第十八期会長としての、皆様への最後のお願いです……
二年間本当にありがとうございました。



平成二十年度総会報告

高座組 藤本 剛史

平成二十年四月二十三日、大本山光明寺にて「平成二十年度浄土宗神奈川教区青年会定期総会」が行われました。

大殿での回願法要後、書院にて相馬副会長の開会宣言にて午後一時より総会が開催されました。総会出席者は五六名、委任状が四二名分、計九八名で現在の会員数百二十四名の過半数を得て成立致しました。

第十九期平野会長、第十八期三荒会長（現相談役）の挨拶の後、大本山光明寺執事長よりご挨拶を頂戴し、続いて神奈川教区より参事の安藤昌信上人よりご祝辞を頂きました。

議長選任については立候補者がなく、会長の指名により港北組大橋定敏会員が推薦され一同拍手の中、承認されました。

議案審議については平成十九年度事業報告・同会計報告に続き、平成二十年度事業計画案・事業予算案と審議され、共に一同拍手により承認されました。

報告依頼事項では今期の役員、理事の紹介、挨拶があり、その後、前期に全国浄土宗青年会に副理事長として出向していた港北組大橋定敏会員と関東ブロック浄土宗青年会に事務局員として出向していた高座組香川陽祐会員より退任の挨拶がありました。

また今期関東ブロック浄土宗青年会に港南組石川参天会員が監事として出向する挨拶がありました。

次に各組の常任理事による事業・会員紹介の後、卒業会員、新入会員への記念品贈呈がありました。

卒業会員は九名おられ、内三名のご出席をいただき、皆様よりご挨拶を頂戴しました。新入会員は二名ですが本年の出席はございませんでした。

その後、石川、成田両監事より総括があり最後に當副会長の閉会宣言によって本総会は無事閉会致しました。



インド積尊遺跡巡り

港南組 石川 参天

去る一月二十七日〜二月二日に掛けて、他宗団見学の 일환として「インド積尊仏跡研修旅行」と題して、三荒会長以下七名にてインドへ行って参りました。

会長以外の会員は初めてのインドの地であり、旅支度も安直にインドに暑いという具合に薄着ばかりをケースに詰めていた所、出発の前日にインド団参旅行より帰国していた平野教区長とお会いする機会を得て、「今年には四十年ぶりの寒波がインドに来ており、日本と気温はそう変わらない」との助言を頂き、参加メンバーに急遽連絡を取り、皆事無きを得ました。この場を借りまして御礼申しあげます。有難う御座いました。

さて現地では、電車・飛行機と主にバスが移動手段であり、仏跡見学は一割で移動が九割と思える程時間を費やしましたが、それだけにこの道のりを積尊は歩いて仏法を弘めたかと思いを馳せると感慨は深まり、特に今回巡った仏跡の中でも霊鷲山・ブツダガヤ・クシナガラ等の聖地では、その地に立てた事で二千五百年の時を隔てて阿弥陀仏の本願を御伝え頂いた積尊との尊縁を改めて感じずには居れませんでした。

どうぞ皆様も機会が在る時には様々な仏跡へ足をお運び感じて下さい。私もこの貴重な体験を念仏布教の場に生かして行きたいと思えます。



関ブロ浄青詠唱奉納大会報告

高座組 香川 陽祐

去る平成二十年四月四日、大本山増上寺に於いて詠唱奉納大会がおこなわれました。神浄青からは五名、関ブロ浄青全体では五十名以上の参加でありました。

多くの檀信徒の皆様が日ごろの成果を奉納するなか、関ブロ浄青は例年通り『月影の御詠歌』を青年僧侶らしく、増上寺大殿の隅々まで響き渡るほどの大きな声で堂々と奉納してまいりました。



三天本山・関ブロ浄青別時念仏会

高座組 香川 陽祐

去る平成二十年四月五日、大本山増上寺に於いて三天本山・関ブロ浄青別時念仏会がおこなわれました。神浄青からは七名、関ブロ浄青・檀信徒の皆様では総勢百十八名の参加となりました。

増上寺の御忌のさなかであり、わずかな時間でのお念仏ではありましたが、檀信徒の皆様・浄青の仲間と共にお念仏をお称えることができたことは、大変貴重な時間でありました。





副会長
當間 伸行

第19期副会長をつとめさせていただきます、鎌倉組延命寺・當間伸行です。
今期、平野会長は「原点回帰」～自省からの出発～をテーマに掲げ、法然上人八百年大遠忌の前に、僧侶としての自分と、浄土宗青年会について見つめ直す大切な時期と位置づけられました。そのような時期に執行部の一端をつとめる責任の重大さを感じております。相馬副会長としっかりと連携し、会長の補佐を第一に、副会長としての二年間を全うしたいと思っております。会員の皆様並びに諸大徳にはご支援ご指導のほど、お願い申し上げます。
自分の浄土青での履歴は誇れたものではなく、経験不足の身と思っておりますが、その少ない経験からでも、そこから得られたものは自分にとって貴重な人生の財産と思っております。浄土活動の面白さ、素晴らしさを内外へ発信できるよう、力をつくしたいと思っております。何とぞよろしくお願い申し上げます。



監事
石川 参天

この度、第19期浄土青監事を務めさせていただきます石川参天です。第18期で共に副会長として三荒会長を補佐して参りました平野誠司上人を新会長に迎えられました事に大変喜んでおります。今期のテーマとして、「原点回帰」～自省からの出発～を掲げます。浄土青会員一人一人の浄土宗僧侶としての意識向上を図り、来る法然上人800年大遠忌へ向けての活動準備期間も兼ねた貴重な2年間と成ることは間違い無いでしょう。前期事業である法然塾で投げかけられた「何をすべきか」の一つの答えを出せるかは、平野会長の呼びかけに対する、会員皆様の熱意が不可欠と思われます。私も副会長から監事へと役割は変わりますが、会員の一人として皆様と共に自行・化他・和合に研鑽を積みみたいと思っております。今期事業活動へのご協力をお願い致します。監事挨拶とします。



会計
柴田 文彦

過去において浄土青の役職を事務局員、書記、編集委員、あるいは様々な実行委員を務めさせていただきましたが、今期、平野会長のもと会計という大役を仰せつかりました。
今までの役職も十分にこなせなかったにも関わらず、会計という役職は自分にとって恐れ多く、身に余る役職と思っております。
しかし、今期は元祖法然上人800年大遠忌を間近に控える大切な時期。それを踏まえ、敢えて自分自身が過分なる役職に取り組ませていただき、是非とも浄土活動における原点回帰とも言える自行・化他・和合の三信条からなる活動を充実させ、そして飛躍を図り、お念仏の教えの弘通に努めて参りたいと思っております。
不行き届きな点多々あるかと思いますが、皆様からご指導ご鞭撻を頂戴しながら務めて参りたいと思っております。よろしくお願いいたします。



会計
宮腰 肇玄

この度、第19期浄土宗神奈川教区青年会会計を仰せつかりました神奈川教区高座組淨見寺副住職宮腰肇玄でございます。
私自身、もとより浅学非才の身ではございますが、第19期浄土宗神奈川教区青年会会長平野誠司上人のもと「原点回帰」～自省からの出発～というテーマを皆様と共に掲げながら、3年後の宗祖法然上人八百年大遠忌に私達の活動が繋がる事を理想としながら会計としての役割を鋭意努力して務めて行きたいと思っております。
同じく会計を務めます柴田文彦上人を補佐し、第19期浄土宗神奈川教区青年会の各事業を2年間お手伝いさせていただきます。どうぞ皆様よろしくお願い申し上げます。



事務局長
藤本 剛史

今期より浄土宗神奈川教区青年会第19期の事務局長に就任致しました高座組の藤本剛史です。今期は高座組より平野誠司会長が選出され、当組からは平野仁司初代会長以来、約30年ぶりの出来事であり大変嬉しく、また身の引き締まる思いでございます。
第19期の活動指針である「原点回帰」～自省からの出発～を基本に5名の事務局員と共に身を粉にして努めて行きたいと思っております。
浄土青は先輩の御上人方の御尽力のおかげで本年めでたく35周年を迎え、記念事業として講演会や会員手帳の発行等を計画しております。また800年大遠忌に向けて、法然上人の学ばれた比叡山に他宗団見学をし、黒谷・青龍寺にて別時念仏会を行いたいと思っております。
他にもおなじみのソフトボール大会や平成21年度には第3回目の浄土青大別時會、家族親睦会等々、それと全浄や関プロの行事もございしますので、是非皆様の御参加をお待ちしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

出向者紹介



関東ブロック監事
石川 参天

この度、蓮池理事長の要請を受けて、第19期関東ブロック浄土宗青年会監事を拝命致しました石川参天です。
本来私が受けるべき役職では在りませんが、前期県理事りのご縁を頂いたものと思っております。石垣理事長第18期に於いては県より香川陽祐上人が事務局として出向し、浄土青としての信頼と絆を深めて頂きました。
私も会員皆様と関プロとのパイプ役に成れる様努めて参りますので宜しくお願い致します。

事務局員



香川 陽祐



皆川 演亮



水谷 竜也



小松崎 成淳



坂本 慎成

2年間
よろしく申し上げます。



第19期マスコットキャラクター
座間のセイちゃん



監事
成田 善俊

今期、会長が掲げる「原点帰帰」～自省からの出発～というテーマに私自身も考えさせられます。神浄青活動に参加させて頂いて早20年余り、最初は何をしてよいかも全くわからず、諸先輩の後をついて、ただ一生懸命だったあの頃。果たして今の自分は・・・

この度、監事の任を受け、今一度「原点帰帰」し、諸先輩に教わった多くの経験を、監事という立場から若い方に伝えて参りたいと思います。

2年間ではありますが、会員一丸となって活動が出来るよう、微力ながら会長を支えていきたいと思ひます。

どうぞ宜しくお願いいたします。



副会長
相馬 正覚

このたび、第19期神浄青副会長を拝命しました。

今期平野会長の掲げるテーマ「原点帰帰」～自省からの出発～のもと、はなはだ微力ではありますが、われわれ浄土宗青年僧侶がいま何をなすべきかを、会員の皆様とともに真剣に考え、行動してゆきたいという思いに駆られています。

ここ数年來、神浄青を長く支えて下さった偉大な先輩方が次々と卒業なさってゆくなかで、大きな喪失感を禁じ得ませんが、同時に気がつけば、若手会員の皆様がとても頼もしく感じられるようになりました。

青年僧でいられる期間は決して長くはありません。一人でも多くの方に、一つでも多くの事業にご参加頂き、ともに成長してゆきたいと念じております。

2年間どうぞ宜しくお願い致します。

第19期 神浄青 役員紹介



相談役
三荒 弘道

平成20年4月23日の「神浄青定期総会」にてご承認を頂き、第19期浄土宗神奈川教区青年会の相談役を務めさせて頂くことになりました。

平野誠司会長率いる第19期浄土宗神奈川教区青年会ではテーマを「原点帰帰」と掲げ活動してまいります。平野会長の実直さが顕れている素晴らしいテーマであります。相談役の役割は、平野会長をしっかり補助し、平野会長の考える活動指針に基づいた諸事業を、遂行するためのサポートをする事だと思っています。常に会長より一歩退いて、時にはやさしく…時には温かく…時には慈しみの心で…（偶には鬼神となりますが…）皆様と同じ目線で第19期神浄青を支えてまいります。

私も長年お世話になった神浄青とのご縁も最後の期となります。今まで神浄青で培った経験を、今後神浄青の核となる若き会員の皆様と少しでも伝える事ができたらと思っています。年寄りだと敬遠せずに気軽に声を掛け下されば幸いです。

大好きな「浄青」への最後の奉公として、誠心誠意「相談役」の職を務めてまいります。2年間どうぞ宜しくお願い申し上げます。



書記
石川 和弘

今期、平野会長から書記に選出されました港北組の石川和弘です。

気がつけばわたしも浄青として活動できるのも、片方の手の指で数えられるようになりました。平野会長・成田監事は大学の1級先輩、石川監事は2級先輩、相馬副会長は同学年、當間副会長は高校の2級後輩、藤本事務局長は大学の同級生と、自分と近い年代の方々々と執行部に携われるということで、ただ会議の議事録をとるというだけでなく、それなりに立場を求められているのかな、と思ひます。今期の「原点帰帰」という活動テーマを自分なりに消化し、執行部だけでなく理事、会員の皆様と共に活動できたらと思ひます。

今期前半は教化団理事も兼任しております。教化団事業も皆様にご協力をいただかなければ何一つ行うことができません。いろんな事業ひとつとっても、少しずつ変換の時期に差しかかっています。なお一層の研鑽に励み、共に精進したいと思ひます。2年間よろしくお祈りいたします。



編集委員長
森本 有史

今期、編集委員長の役を受けさせて頂き、京浜組 良忠寺 森本有史でございます。

元よりその器でないことは、十分自覚しておりますが、お声をかけて頂いた事に感謝し、お引受けさせて頂く事と致しました。そして、この様な決断をした以上、過去3期・計6年に渡り当委員会に所属させて頂いた経験を存分に生かし、伝統ある編集委員会の更なる発展を志し、誠に頼りなく微力ではございますが、全身全霊、全力をもってその任を全うしたいと存じます。

今期、我々編集委員会の活動と致しましては、6月1日発行予定である、神浄青機関紙「浄青神奈川」の発行、そして12月1日発行予定である、対内紙「NICEBOSE通信」の発行を最大の責務とします。我々編集委員会一同、自分達がこの任を楽しむ事を基本とし、機関紙については、その1年の活動指針や報告の場、青年会の皆様のお役に立てる紙面作りを心掛けます。対内紙ナイボについては、つい手に取って読みたくなる紙面、ホッと一息、至上の暇潰し、更には貴殿の心の隙間を埋める偉大なる紙切れを目指します。何卒、お力添えの程、宜しくお願い申し上げます。

編集委員



吉岡 了英



三浦 正順



阿川 貫浄



三浦 康志



稲見 公宏



佐々木 元洋



港南組

丸地 裕信

この度、長谷川昌史会長の後を受け、港南組青年会の会長を務めさせて頂くことになりました。

本年度、港南組青年会は副会長に伊藤知道、事務局並びに理事を石川仁恵に務めて頂きます。また長年、港南浄青を支え続けて頂いた井上俊道上人・石川覚順上人がご卒業され港南浄青と致しましては大きな痛手ではあります。新生港南浄青として、自行・化他・和合の精神に基づき心を一つにし、総勢十二名の会員と共にスタート致します。

さて今期の事業と致しましては、昨年度から引き続き鎌倉組青年会と合同の布教研修

会「勅修御伝」聖典輪読会（講師・柴田哲彦先生・八月を除く年十一回）を中心に、港北組青年会との合同家族親睦会、港南浄青婦人親睦会（年三回）、また昨年度から開始した法式研修会（講師・塩澤智彦先生、年四回）を予定しております。

また今年度は教区ソフトボール大会を担当させて頂きます。担当組として、万難を排し、笑顔で皆様をお迎え出来ますよう会員一同頑張ります。

最後となりますが、教区青年会事業にも積極的に参画していく所存でありますので、何卒ご支援ご協力の程、宜しくお願い致します。



京浜組

加藤 光成

こんにちは！今期より京浜組青年会の会長をさせて頂く、大徳寺加藤光成です。宜しくお願いします。

前期の林田会長期では、青年会主催の五重相伝会を行いました。僕たち青年会員が数え切れない程の研修会を重ね、準備作業に長い時間を費やし一つ一つ作り上げた、正に手作りの五重相伝会でした。ちよつと手前味噌ですが大成功のうちにも成満する事のできたとても素晴らしい五重相伝会であったと思います。

また、青年会の結束を今以上に強める事のできた事業（自行）でもありました。五重相伝会に参加された受者の皆様にもケタ（化他）外れに喜んで頂き、僕たち青年会員も頑張った甲斐がありました。そして、美味しい地魚を頂きながらの打ち上げ兼反省会では、

出てきた料理の美味しさに思わず、「わお！」（和合）と言っ てしまいました。

そして迎えた今期、僕ら京浜組青年会は少しばかりそのペー スを落とします。一息つくと申しませうか、上がった心拍数を整えんと申しませうか、はたまた次のスタートへの準備期間とでも申しませうか、上手く表現出来ませんが、そんな感じです。

どこかでこんな言葉を聞きました、「長く助走をとった方がより高く飛べる。」そんな言葉を信じ今期の事業計画並びに活動方針等をゆつくりと考えて参りたいと思っております。

僕たち京浜組青年会は、互いに切磋琢磨しながら、また他組青年会の皆様との懇親を深めつつ、今期を過ごして参ります。宜しくお願い致します！

神浄青各組紹介



高座組

村瀬 良善

この度、高座組青年会の会長を務めることになりました。念宗寺の村瀬良喜です。昨年二月には帰郷式を行うなど、精力的な活動で多くの実績を重ねてこられた平野誠司会長の後任とすることで、正直荷が重いと感じておりますが、戸田順教・上田真彦副会長、三浦康志事務局長はじめ会員皆様方のご協力をいただき、会員総勢二十名が一丸となって船出したいと思っております。

今期の高座浄青の事業につきましては、基本的には諸先輩方が築き上げてこられたものを継承し、自行・化他・和合の実践を図り、その中で多少なりとも自分の色を出すことができればと思っております。具体的には、継続事業である法式・詠唱研修会、仏名会、

家族親睦会を実施し、新たな試みといたしまして、神浄青でも展開されているホームベージについて、その調査研究の時期に当たりたいと考えております。

さて、高座浄青前会長の平野上人がこの度神浄青の会長に就任されました。これは、我々高座浄青会員にとりまして大変喜ばしいことであり、神浄青の諸事業に積極的に参加するなど、全会員挙げてお支えしていく所存でございます。

仕事をしながら、というのは言い訳になりますが、浄青の活動に参加することが少なかつた私でございます。今後は積極的に参加し、早く顔を覚えていただけるようにと思っておりますので、皆様よろしくお願いたします。



港北組

森 泰道

この度、港北組青年会の第十五代会長を務めさせて頂く事になりました。宝秀寺の森泰道です。今期役員には、副会長に柴田文彦上人、渡辺剛志上人、事務局長に安田雄心上人、会計に水谷竜也上人、沼倉雄人上人を務めさせて頂きます。

また長年港北組浄青にご尽力を頂き、支え続けて頂いた専称寺夏見直貴上人が退会され、今期は十四名の会員と共にスタート致します。

今期は塩沢智彦先生による

年四回の法式研修会、港南組合同の家族親睦会等を中心に活動したいと思っております。

また今年度神浄青へ組浄青より、書記として石川和弘上人、会計として柴田文彦上人、事務局として水谷竜也上人が執行部に入ります。

神浄青の発展に微力ながら港北組一丸となり貢献できるよう努力したいと思っております。二年間どうぞよろしくお願いたします。



中郡組

吉田 健一

今期中郡組浄青では、「悲嘆」の問題を取り上げ、様々な活動を行ってまいります。地域社会や家族のあり方が大きく変容している現代に於いて、愛する人を亡くし悲嘆に暮れる「個人」は孤立してしまいます。私たちはそれらの人々の個々の苦しみに向かい合いながら、「浄青」として何ができるか—ではなく、「私たちもいずれ悲嘆を経験するひとりの人間」として、彼等から多くを学ぶと共に、孤立する個々の人々が繋がりが合い、お互いが支えあう「セルフヘルプ（セルフケア）」できる場としての寺院の可能性、僧侶の役割なども考えて行きたいと思えます。人は悲嘆の中にありながらも死の現実を明らかに、故人との新たな関係性を築くことで未来に対し光明を見出すことなくはなりません。そのためにも、

確かな宗教観をもつことが不可欠です。そして、往生浄土、俱会一処といった浄土宗の教えは遺族にとつての光明そのものであると考えます。共に往生浄土を願うものとして、同じ目線に立ちながらも、「死」の向こう岸に我々の求むべき浄土を指し示すことができないのは、医師やカウンセラーではなく、浄土宗僧侶だからこそ出来る役割であると考えます。人の悲しみは、一般化できるものではありません。机上の議論ではなく、実際にフィールドワークなどを通じて、自分が何かを感じ取ることが必要であると考えます。また、講習会などを通じて、広く各組の皆様にも呼びかけて行きたいと考えております。



鎌倉組

成実 洋史

この度、鎌倉組青年会の会長を務める事になりました。成実洋史です。今年度より安養院 鳥居淳生上人が入会されました。会員各々個性がありませんが、仲良く活動していきたいと思います。

平成二十年度の事業は、昨年度より引き続き、港南組と合同で柴田哲彦先生を講師に經典講読研修会（勅修御伝）を、また歳末助け合い托鉢・忘年会を行う予定です。また新規事業として普通救命講習を行います。各寺院にてお年寄りの方がお集まりになる機会が多いかと存じ、緊急時の対応を知っておく事も浄青会員として必要と考え、人工呼吸法・AED（体外式自動除細動機）の取扱い方を中心に勉強させて頂く予定です。浅学非才の私の様な者に会長を務められるかわかりませんが、副会長長島瀬弘昌上人、事務局伊香輪一暎上人、会計関谷泰然上人。又、幹事として當間浩昭上人、當間伸行上人にお願いをしており、諸先輩や会員諸師のご指導・ご協力の下に一生懸命務めるつもりですので、二年間どうぞ宜しくお願いいたします。

神浄青各組紹介



小田原組

岩崎 正伸

小田原組の岩崎正伸です。二年間よろしくお願ひ致します。松蔭前会長をはじめ歴代会長のお陰で近年の小田原浄青は大変盛り上がりがあります。豊富な個性、豊かな才能、若い世代の積極的な事業への参加。現会員の誰でも会長が出来る状態なのですが、順番で私になりました。

毎月行われる「勉強会」ですが、今年の勉強のテーマは五重相伝です。初重、二重...を会員に勉強してきていただき、四十分程度でそれぞれ講義してもらいます。その後、お互いに「ダメ出し」します。人前で話すことにも徐々に慣れていくと良いと思います。ちなみに、前回までの勉強会では、北邨先生による「和讃」、石川会員による「自力と他力」、大



三浦組

菊地 邦彦

この度、進藤会長の後を引き継ぎ、三浦組青年会第十五期会長を務めさせて頂く事になりました。正行院の菊地邦彦です。組の役員は副会長が福本寺の山本宗純上人と新善光寺の清水道善上人、事務局が光徳寺の清水光司上人、会計が真光院の須田應紀上人、監事が無量寺の進藤法雄上人です。県浄青の役員は事務局員が東漸寺の小松成淳上人、編集委員が光照寺の三浦正順上人です。今期、研修事業としては三浦組青年会の先輩上人であります光雲寺慶野巨文上人、天養院吉水祥史上人、不断寺杉浦定徳上人にご講師をお願いし布教、法式、また青年僧侶として今勉強すべき事を開催する予定です。親睦事業は毎年伝統のピンゴ&パー

ベキニー大会、三浦と言えは海外研修も予定しています。他組からのご参加の方も大歓迎です。是非一緒に研修例であります鎌倉組、三浦組合同の歳末助け合い托鉢・忘年会も予定しています。浄青に入会し先輩方々には様々な事をご指導して頂き大変感謝してございます。その心を忘れず、に会員一同仲良く、楽しく、団結し成長して行けたら良いと思っています。会員数も減少してはいますが皆様との交流を大切にできる限り参加しようと考えています。今期も三浦組青年会（別称）VCM（ヴィクセン、コミュニケーション、ミウラ）は三浦らしさを出していきまますのでご指導、ご協力の程宜しくお願い致します。

括総塾然法

法然塾を振り返って—今、何をなすべきか—

林田 康順

三荒弘道神淨青第十六代会長が成し遂げた多くの化他・和合の活動を、その根底から支えた自行の企画こそ、この「法然塾」である。会長を支え、当初からこの企画を応援してきた縁で、全七回に及ぶ法然塾を振り返る。

第一回 浄土宗僧侶の使命―「選択」を担って―平成十八年六月九日、大本山光明寺開山堂において法然塾は始まった。まず、基調講演において林田は、「第十八期・神淨青テーマ」である「選択（せんたく）の責務―選択（せんちやく）を担って―」の一文を追いつつ、選択（せんちやく）を担うべき浄土宗僧侶を選択（せんたく）した私たちの責務は、どんなに時代が移り変わろうとも所求・所歸・去行という浄土宗義の三本柱を決してゆるがせにしないこと、その上で、現代社会が直面する諸問題の解決に向けて尽力する姿勢を保ち続けていくことであると訴えた。その後、参加者全員でディスカッションを行った。

第二回 靖国神社・千鳥ヶ淵戦没者墓苑参拝 同十一月十七日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑と靖国神社を参拝した後、大本山増上寺において、林田による講義とディスカッションを行った。靖国神社では、本殿に参拝（昇殿）した後、遊就館（博物館）を見学した。林田は、「①バランス感覚の堅持」として、マスコミ界の現状を概括した後、多種多様な主張をバランス良く学ぶことの重要性について言及した。それを踏まえ、「②歴史を学ぶ」として、増上寺に設置された神仏合併大教院の真実の姿を提示し、国家神道に基づいて靖国神社が成立した明治初期の特異な宗教事情を述べ、歴史を学ぶことの重要性についても訴えた。

第三回 浄土宗務庁来訪、法然上人御遺跡めぐり―法然上人の息吹を求めて―平成十九年三月七日・八日に一泊二日で行われた。初日は、浄土宗務庁を来訪し、宗議会を傍聴、本会議終了後、里見嘉嗣・宮林雄彦両宗議会議員を囲んで宗政全般についてのご意見を拝聴した。二日目は、かつて京都東山にあった白毫寺に蔵する応永年間（一三九四―一

四二八）の古地図に基づき、法然上人が踏みしめられた東山界隈を実地に散策し、上人がお住まいだった坊の位置や境内拡張がなされる以前の知恩院の状況等を確認した。

第四回 小田原少年院来訪 同五月二十一日、小田原少年院を来訪した。施設見学に続き、教官の方から、青少年が置かれている社会の現状や少年院における矯正教育の内容についてお話を伺った。その後、場所を移してディスカッションを行った。

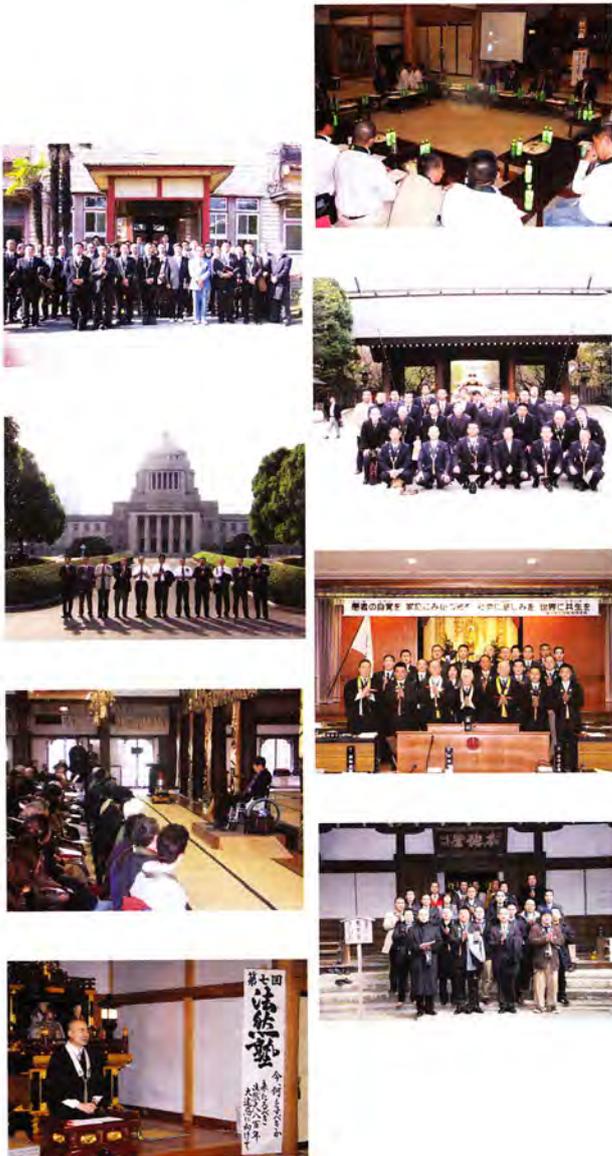
第五回 国会・最高裁判所見学 同九月二十八日、国会と最高裁判所を見学した。その後、増上寺において、林田による講義とディスカッションを行った。林田は「政治と宗教―法然上人と浄土宗教団を中心に―」と題し、古代から現代に至るまで、政治と宗教、特に仏教教団との関わりを鳥瞰した。その中で、天皇を中心とする国家体制の下、阿弥陀仏の前での人間の絶対的平等を訴えた法然上人の画期的思想を明らかにした。

第六回 大別時會 同十一月十七日、光明寺において大別時會を開催した。車椅子の熱風講師として著名な濱宮郷詞先生をお招きし、貴重な講演をいただいた後、二百六十余の参

加者の心を一つにして別時念仏を修めた。

第七回 今、何をなすべきか―来るべき法然上人八百年大遠忌に備えて―平成二十年三月十四日、第一回と同じ光明寺開山堂において最後の法然塾が行われた。まず、これまでの法然塾の記録と、①仏教NGOアユース、②青松寺内仏教ルネッサンス塾、③年間約三万人の方が訪れる應典院の活動やインタビューの映像を上映した後、林田による講演とディスカッションを行った。林田は、過去六回の法然塾を振り返りつつ、①自行―自己を磨く、②化他―他に伝える、③和合―手を携えて、の三方面から浄青会員のなすべきことを具体的に提示し、ディスカッションを行った。

以上、紙面の都合上、駆け足で法然塾を振り返ったが、毎回二、三十名の参加者を得て、終始、活発な議論が交わされた。一連の法然塾を通じ、混迷する現代社会において浄土宗僧侶は何をすべきか、全会員が深く省みる端緒となれば幸いである。最後に、企画から実施に至るまで、終始ご尽力いただいた三荒会長をはじめとする事務局の方々に心から感謝申し上げ、報告に代えさせていただく。合掌



卒業会員紹介



京浜組 正行寺
白石 隆弘

私が約20年前浄青に入会し、初めての組浄青の研修会が、専福寺・成田上人の伝法に関する研修でした。当時、五重という言葉さえよく分からぬ私ではありましたが、諸先輩方のご指導をいただき、組浄青にて帰敬式・授戒・五重相伝と成し遂げられたことは、今後の僧侶という生き方の大きな糧となる重要な体験でした。

このような貴重な体験のできる浄青のますますの発展を願います。



港南組 正覚寺
石川 覚順

入会から四半世紀、思い返せば理事拝任の折、慣れとはいえ諸先輩に対して随分生意気な物言いをしたものだとも汗顔の至りだ。しかしそのような無謀にも背伸びする若輩を真正面から受け止めて下さった諸師に改めて感謝せねばなるまい。

しかしこのような和合僧の有様こそが浄青の良さ真髓なのだと確信する。自戒の念と共に再度自身に奮起を促したい。現役の皆様、浄青という貴重な時間をどうぞ思う存分に駆け抜けて下さい。



高座組 来迎寺
見学 明彦

浄青活動の中で特に印象深かったのは高座組主催の帰敬式と昨年行われた第2回大別時會です。帰敬式では受者係として、また大別時會では実行委員として活動したことは私にとって大変貴重な経験でした。様々な行事に参加する事によって会員の方々の繋がりを感じる事ができた事は大きな財産になりました。会員の皆様のご活躍と浄青の益々のご発展をお祈り申し上げ御礼のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございます。



高座組 浄上寺
渋谷 聡明

入会したとき高座組浄青は2名でした。仕方なく神浄青の理事会へも足を運ぶこととなりました。それから20年いろいろな行事に参加させていただきましたが、最後の年だけは、ほとんど参加することができなく、とても残念に思っております。お寺のことはあまり知らぬまま活動に参加させていただき、何時も勉強させていただきました。何よりも有り難かったことは沢山の仲間が出来たことです。浄青での経験を励みとして頑張っていきたいと思います。



小田原組 本誓寺
成田 昌弥

浄青活動に良く参加する人に悪い人はいないと思いましたが。接していただいた先輩、後輩、同級生、みんな好人。たわいの無い会話がとても楽しかったです。そのような機会が減ってしまうのはちょっと残念。尽力は全然していませんが、少しはお役に立てたかな。今回、卒業しますが、何処ぞで会ったら気軽に声でも掛けて下さい。

活動のなかで知り合えた皆とこれから多岐にお付き合い出来ますよう。

皆さん、お世話になりました。



京浜組 大安寺
水谷 知靖

早いもので43の歳を迎えました。私は大学を卒業後、十数年間浄土宗出版室へ奉公していたのであまり活動へのお手伝いが出来ませんでした。卒業前には常任理事・教区の編集委員長を拝任し、無事に務めあげることが出来ました。これも偏に青年会員一人ひとりの力と恩恵に支えられたお蔭と感謝いたします。その活動で培った尊い教えを確と心に刻み、“シニア”僧侶として、精進いたします。最後に皆様のご活躍をご祈念申し上げます。



小田原組 浄蓮寺
宮嶋 俊道

早いもので、私も浄青の卒業を迎えることとなりました。副住職という立場にありながら、勤めをしているため、神浄青の活動にもほとんど参加せず申し訳ない気持ちでいっぱいであるとともに、会員として暖かく在籍させていただいたことに感謝しています。

神浄青の皆さまの益々のご活躍とご健康を祈念しております。



港北組 専称寺
夏見 直貴

神奈川浄土宗青年会を卒業いたしますが、なかなか参加できなかったことを反省するばかりでございます。皆様方におかれましては、浄土宗の青年僧侶として、社会と関わり合いながらのご発展をご祈念申し上げます。大変お世話になりましたこと、あわせて御礼申し上げます。



港南組 願行寺
井上 俊道

浄青活動を振り返ると、平成18年8月に皆様のご協力の下、無事に全国大会を務められたのが1番の思い出でしょうか。こんな大きな大会の実行委員長を、まさか自分が務めることになるとは思いませんでした。

浄青活動を通じて経験したことが、今の自分にとって素晴らしい財産となりました。是非皆さんも浄青活動を通じて、いろんなことを吸収してください。それがやがて必ず自分の糧となることなのでしょう。



第19期マスコットキャラクター
座間のセイちゃん

編集後記

ようやく「浄青神奈川第35号」発行の運びとなりました。

皆様、今回の「浄青神奈川」いかがでしたでしょうか？機関紙という物の性格上、編集作業で心掛けたのは、「奇をてらわずに凡紙を避ける」という事でした。反省点も多々ありますが、編集委員一同、力を合わせて作り上げた渾身の一紙です。また、ご寄稿頂いた、宮林台下をはじめとする諸上人の皆様、ご協力誠に有難うございました。

宜しくお祈りします



鎌倉組 安養院
鳥居 淳生
①特になし
②特になし
③特になし



中郡組 易往寺
一 真成
①大豆
②麻生久美子
③山

新入会員紹介

①好きな食べ物
②好きな芸能人のタイプ
③趣味

平成20年度 浄土宗神奈川教区青年会 事業計画

月	日	内 容	場 所
4月	4日(金)	関プロ浄青御忌詠唱奉納大会	大本山増上寺
	5日(土)	関東三大本山別時念仏会	大本山増上寺
	14日(月)	第1回理事会	大本山光明寺
	23日(水)	定期総会 神浄青入会式・卒業式	大本山光明寺
5月	26日(月)	第2回理事会 新旧役員歓送迎会	大本山光明寺・鶴ヶ岡会館
6月	1日(日)	機関紙『浄青神奈川』第35号発行	
	24日(火)～26日(水)	関プロ第36回 総会 研修会	長野善光寺大本願
7月	4日(金)	大本山光明寺開山忌前清掃奉仕 第3回理事会	大本山光明寺
	28日(月)～30日(水)	第61回夏期僧堂手伝い (関東地方教化センター・神奈川教区)	大本山光明寺
8月	28日(木) 予定	浄土宗青年会 第4回全国大会	青森 八戸(予定)
9月	初 旬	第4回理事会 他宗団見学	大本山光明寺 比叡山 黒谷青龍寺
10月	9日(木)	大本山光明寺開山忌前清掃奉仕 第5回理事会	大本山光明寺
	12日(日)～15日(水)	十夜法要手伝い	大本山光明寺
	28日(火)	関プロ浄青スポーツ交流大会(山梨教区)	石和
11月	20日(木) 予定	神奈川教区長杯ソフトボール大会	担当 港南組
	25日(火) 予定	関東三大本山 関プロ浄青別時念	大本山光明寺
12月	1日(月)	対内紙『NICEBOSE通信』第13号発行	
	上 旬	第6回理事会	大本山光明寺
	18日(木)	神浄青35周年記念講演 懇親会(忘年会)	横浜市内
1月	24日(水)	御忌別時念 第7回理事会	大本山光明寺
2月		第34回全国浄土宗青年会総合研修会	北海道 札幌
3月		全浄大別時念	
	下 旬	第8回理事会	大本山光明寺

※今年度中に会員手帳発行

《神浄青35周年記念事業告知》

卒業会員の皆様、奮ってご参加下さい。

日時 **12月18日(木)**

会場 横浜市内予定

内容 記念講演 並びに 懇親会

※詳細は後日お知らせ致します。

神浄青ホームページ www.jodo-kks.com

お待ちしております!

